

令和 4 年度 自己評価報告書

(専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版)

令和 4 年 5 月 20 日

日本体育大学医療専門学校

目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価.....	1	基準 5 学生支援	16
基準 1 教育理念・目的・育成人材像	2	5-16 就職等進路.....	16
1-1 理念・目的・育成人材像	3	5-17 中途退学への対応	17
基準 2 学校運営	4	5-18 学生相談	17
2-2 運営方針.....	4	5-19 学生生活	18
2-3 事業計画.....	5	5-20 保護者との連携.....	19
2-4 運営組織.....	5	5-21 卒業生・社会人.....	19
2-5 人事・給与制度.....	6	基準 6 教育環境	21
2-6 意思決定システム	7	6-22 施設・設備等	21
2-7 情報システム	7	6-23 学外実習、インターンシップ等	22
基準 3 教育活動	8	6-24 防災・安全管理.....	23
3-8 目標の設定	8	基準 7 学生の募集と受入れ	24
3-9 教育方法・評価等	9	7-25 学生募集活動	25
3-10 成績評価・単位認定等	10	7-26 入学選考	26
3-11 資格・免許の取得の指導体制	11	7-27 学納金	27
3-12 教員・教員組織.....	12	基準 8 財務	28
基準 4 学修成果	13	8-28 財務基盤	28
4-13 就職率	13	8-29 予算・収支計画.....	29
4-14 資格・免許の取得率	14	8-30 監査.....	30
4-15 卒業生の社会的評価	15	8-31 財務情報の公開.....	30

基準 9 法令等の遵守	31
9-32 関係法令、設置基準等の遵守	31
9-33 個人情報保護	32
9-34 学校評価.....	33
9-35 教育情報の公開.....	34
 基準 10 社会貢献・地域貢献.....	 35
10-36 社会貢献・地域貢献	35
10-37 ボランティア活動.....	36

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	令和4年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
教育理念 本校の教育理念は、柔道整復学・歯科衛生学を正しく認識し、その基本知識・技術を修得し、柔道整復・歯科衛生を実践し、併せて学究心を向上させ自己の人間性を豊かにする。そして生命の尊厳を自覚し、人間として謙虚な心と仁愛の心を持った有能な人材を輩出する。 目標 ・柔道整復学・歯科衛生学を学ぶ際の基本的な考え方・態度・習慣を修得する。 ・柔道整復学・歯科衛生学の基本的知識を修得する。 ・柔道整復学・歯科衛生学の基本的技術を修得する。 ・柔道整復・歯科診療補助・歯科予防処置・歯科保健指導を実践する際の基本的態度と行動を修得する。 ・自ら学習する姿勢及び研究的態度を修得する。	教学 国家試験合格率の維持向上 中途退学者の抑制 学力低位者への学力向上 入学選抜の見直し 財政 校舎建替え資金の確保 諸経費の抑制 施設・設備投資の抑制	教学 国家試験合格率 100%を目指す。 中途退学者は現時点では昨年度より抑えられている。 学力低位者への補習、個別対応の充実化を図っている。	教学 定員充足に向け、高校や大学など広報活動をさらに強化する必要がある。 学生全体の学力向上のためにさらなる学生指導の徹底が必要である。

最終更新日付	2022 年 5 月 20 日	記載責任者	富田 美穂子
--------	-----------------	-------	--------

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校の教育理念は、柔道整復学・歯科衛生学を正しく認識し、その基本的知識・技術を修得し、もって柔道整復を実践し、併せて学研心を向上させ自己の人間性を豊かにすることである。 ① 柔道整復学・歯科衛生学を学ぶ際の基本的な考え方・態度・習慣を修得する。 ② 柔道整復学・歯科衛生学の基本的な知識を修得する。 ③ 柔道整復学・歯科衛生学の基本的な技術を修得する。 ④ 柔道整復・歯科診療補助・歯科予防処置・歯科保健指導を実践する際の基本的な態度を修得する。 ⑤ 自ら学習する姿勢及び研究的な態度を修得する。 以上、5 つの一般目標（＝目的）を設定し、教育理念達成のために座学・実習はもとより、臨床実習施設での見学と臨床実習を通して知識と技術を修得させるように努めている。	本校における、柔道整復師・歯科衛生士に要求される教育内容は、医師と同様に時代に伴い進歩していることから、カリキュラム内容の検討、本校の特色を活かした教育内容の創出に努めている。広汎な医学的造詣を持っている医科大学教授、専門領域（解剖学・生理学・運動学等）で研究・教育に携わり活躍する講師や臨床で活躍している柔道整復師・歯科衛生士（開業柔道整復師・歯科衛生士）の教員による技術力、臨床力の向上を目的に実践している。

最終更新日付	2022 年 5 月 20 日	記載責任者	富田 美穂子
--------	-----------------	-------	--------

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	学則第1条に明記している。	・学則 ・学生便覧 ・学校案内	現状を維持したい。	・学則 ・学生便覧 ・学校案内
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	5つの一般目標(=目的)を掲げて、柔道整復の知識と技術の修得に努めている。	・学則 ・学生便覧 ・学校案内	業界等の人材ニーズに適合するようさらに努める。	・学則 ・学生便覧 ・学校案内
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	5つの一般目標(=目的)に向け教育に努めている。	・学則 ・学生便覧 ・学校案内	理念等の達成に向け特色ある教育活動にさらに取り組んでいきたい。	・学則 ・学生便覧 ・学校案内
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	学外の方々に本校設立理念・一般目標(=目的)を公表し社会のニーズに応えられるよう努める。	・学則 ・学生便覧 ・学校案内	さらに、社会のニーズにこたえられるよう努める。	・学則 ・学生便覧 ・学校案内

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
5つの一般目標(=目的)達成のために講義・実習はもとより、臨床実習施設での見学と臨床実習を通して知識と技術の修得に努めている。	三つの学校設立理念を基盤としている。 ① 伝統：130年余りの伝統をもつ学校法人日本体育大学を基盤 ② 精神：「仁愛」「誠実」「礼儀」という精神を校風とした基盤 ③ 学問：医学、整形外科学、柔道整復学・歯科衛生学に優れた講師陣を配した学問的基盤

最終更新日付	2022年5月20日	記載責任者	富田 美穂子
--------	------------	-------	--------

基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は、昭和 48 年、当時日本体育大学が学長清水正一先生の提案に基づき、柔道整復師養成施設として厚生大臣（現、厚生労働大臣）の認可を受け設置した。以来、約 2800 名以上の卒業生を世に送り出している。 平成 30 年度には新たに歯科衛生士養成課程を設置し二学科体制とし、柔道整復師・歯科衛生士を養成する医療系専門学校である。 本校の目的は、学校教育法に基づき柔道整復師・歯科衛生士を希望する者に対し、専門教育を施し、これに対する必要な知識及び技能を修得させることによって優秀なる柔道整復師・歯科衛生士を養成することを主目的にしている。その学校運営方針は、学則等によって教職員に伝えている。	毎年 10 月末迄に次年度の事業計画（事業方針、新規事業計画等）の提出並びに予算編成の通知が学校法人日本体育大学（＝法人）よりある。 事業計画の提出は、1 月中旬から下旬にかけて事業計画及び予算編成方針について書類の提出がある。2 月上旬から中旬に法人とのヒアリングを実施する。その後、法人事務局で傘下各学校の事業方針及び新規事業計画並びに予算編成を取り纏めて、3 月に法人理事会・評議員会で決定し、現場はこの決定に則り運営している。

2-2 (1/1)

2-2 運営方針

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	本校の学則・学生便覧に目標（＝目的）が明確に定められている。	・学則 ・学生便覧		・学則 ・学生便覧

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
少子化の進行並びに教育改革の急速なる展開の波により大学・短大への全入時代の到来に伴い、受験希望生の急激な減少の中で、学校経営は厳しい時代にある。従って、現場としては、系列学校との一層の連携を図り、諸制度・仕組みの改革を計る。	日体大への 3 年次編入や日体大からの入学者への広報活動を積極的に行っている。

2-3 事業計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	法人事務局の指針に沿って事業計画を作成している。	日本体育大学医療専門学校の事業計画書	学内の事業計画を校内に十分に周知させる。 教職員打ち合わせ及び各委員会を設置し、それぞれの役割を果たす中で学内統制を図っていく。	・本校の事業計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
事業計画は、グランドデザイン（将来構想）、ロードマップ（将来３年間の行程表）事業内容と予算額から計画を立て、法人との協議において、年度の事業計画・予算編成を行っている。	グランドデザインは基本施策、実施施策、当年度の計画と具体的且つ段階的に事業計画を立て、実施していく。事業計画・予算編成は学内での要望等を教職員打ち合わせ会議及び各委員会で検討し、法人へ提出している。

2-4 運営組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	学校法人規程類集の法人組織規程に則り組織運営を行っている。	学校法人規程を基に運営している。	教職員への更なる周知により、円滑に組織運営を行う。	・学校法人日本体育大学組織規程 ・日本体育大学医療専門学校組織細則 ・日本体育大学医療専門学校学則
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	学校組織細則を整備している。	学校組織細則に則り業務を行っている。	学校組織の円滑な運営により、学校の更なる向上を図る。	・学校法人日本体育大学組織規程 ・日本体育大学医療専門学校組織細則 ・日本体育大学医療専門学校学則

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教学関係に関しては、校長の諮問事項（教務委員会等の委員会）、または教員会議が付託する事項について審議し、最終的に教員会議の議を経て決定している。 上程する議案の決裁は、稟議書により審査を経た後、校長（決定権者）が決定する方式を採っている。	

2-5 (1/1)

2-5 人事・給与制度

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	採用基準、採用手続きについて規程を設け運用している。 給与について細則を定め運用している。	法人規程類集により、運用している。	今後規程、規則を更に整備する方向を目指す。	・学校法人日本体育大学組織規程 ・日本体育大学医療専門学校就業規則 ・日本体育大学医療専門学校任期制助手内規 ・日本体育大学医療専門学校給与細則

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校法人日本体育大学（＝法人）規程により人事・給与の処遇に関しては、整備している。	

最終更新日付	2022 年 5 月 20 日	記載責任者	富田 美穂子
--------	-----------------	-------	--------

2-6 意思決定システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	教員会議に関する規則を制定し、校長の諮問機関として、本校の重要な事項について審議する。	学則に基づき教員会議をおき、審議をする場を設けている。	校長の諮問機関とし、最も効率的且つ適正に審議を図る上で規則の見直しを計りたい。	日本体育大学医療専門学校教員会議に関する規則

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各種委員会（教務委員会・入試広報委員会・危機衛生管理委員会・接骨院運営委員会・国家試験対策委員会・人事委員会等）を設置して学校運営を行っている。 また、整復健康学科(柔道整復)・口腔健康学科(歯科衛生)と附属接骨院の各部門とのコミュニケーションを図っている。	

2-7 情報システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	法人・学校間 LAN の導入により、法人並びに姉妹校間（大学を除く）の情報交換が出来、効率的な業務が遂行できる。	業務管理システムの導入。	現在導入している学生管理システムを運用し、データ管理を更に的確に処理する。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
運営・管理部門（事務系）に関しては、情報システム化がなされている。学生管理に関する情報・成績管理についてもシステム化は進展している。	

最終更新日付	2022 年 5 月 20 日	記載責任者	富田 美穂子
--------	-----------------	-------	--------

基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校の教育活動は、国家試験合格を大前提として行われている。ただし、国家試験合格のみを目標とするのではなく、卒業後医療現場に出た際に即戦力となるような人材育成も目標の一つである。 カリキュラムは、この目標を達成するために編成されているが、柔道整復師・歯科衛生士指導要領に基づく必要があるため、国家試験科目でない基礎科目もカリキュラムに組み込まれている。 授業内容・方法等の見直しについては、令和4年度は9月上旬と2月中旬に学生による授業評価及び教員による学生の受講態度に対する評価も併せて実施する。その結果を教員・学生相互にフィードバックしている。 学外での教育については、本校同窓生が主催する臨床研究会や各種学会、各種講習会、各種勉強会への学生参加を呼びかけている。（勉強会以外、令和3年度コロナ禍により実施なし）	併設校である日本体育大学との連携した教育・実習を考えている。

3-8 (1/1)

3-8 目標の設定

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	柔道整復学・歯科衛生学を正しく理解し、その基本的知識・技術を修得し、併せて学究心を向上させ自己の人間性を豊かにする事が方針である。	1年次から3年次にかけて臨床力を身につけるため、知識、技術、態度などの修得に努める。	卒業後、それぞれの現場で即戦力になれるような教育を図る。学究心を育む機会の提供、人間性を豊かにするイベントを検討する。	
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	学生として3年間で修得すべき技術・知識を目標とし、実際に到達可能なレベルに設定している。	知識に関しては、国家試験合格率、また技術に関しては、現場からの評価が根拠となる。	目標レベルをより高め、振り返りやフィードバックを繰り返す、目標に向かって一層教育の充実を図る。	国家試験結果一覧表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
在学中に修得必要な技術・知識に向けての教育がシラバスにより定められている。 臨床現場に必要なコミュニケーション能力を養う教育に当たっている。	技術職であるため技能の取得には、年月を要する。従って、学校教育だけでは限界がある。

3-9 (1/1)

3-9 教育方法・評価等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	教育目的・目標に沿ったシラバス・指導案を作成し、学生に周知している。教育課程は年度毎に検討している。		専門的な知識だけでなく、人間性を豊かにする基礎科目分野を模索する。	シラバス
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	卒業生や関係する機関等から委員を選出し構成する学校関係者評価を実施。結果を学内に周知している。			学校関係者評価報告書
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	柔道整復師・歯科衛生士として基礎的能力を育成し、社会・業界との関連性の理解を求める。	臨床実習だけでなく、柔道整復師・歯科衛生士業界の代表者から社会における柔道整復師・歯科衛生士について等の講話を実施している。	医学知識のみの教育では地域社会に求められる医療人は育成されないと考える。その他、人間性の育成も重要であるため、今後の教育に努めたい。	
3-9-4 授業評価を実施しているか	授業内容の向上に努める。	法改正前（平成 15 年）から法改正に基づき本校では、年に一回以上学生による授業評価を実施している。	各授業担当教員に授業評価の結果をフィードバックし、今後の授業の改善を伝える。 内容を精査し、重要度を上げていく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
職業実践専門課程の役割を果たす為に授業内容の向上、卒業後の社会・業界との関連性の理解を高めるよう努めている。	在学中は資格取得に向けての勉強が中心となる為、社会・業界に対する興味が低いと思われる。

最終更新日付	2022 年 5 月 20 日	記載責任者	富田 美穂子
--------	-----------------	-------	--------

3-10 (1/1)

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	基礎科目について 14 単位を上限に既修得単位の認定を行っている。また、シラバス内容に則し試験を実施し、成績評価を行い、単位を認めている。	既修得単位を単位認定するに際し、会議にて審議し、適正に運用している。	成績評価をより客観的に行えるかを検討する。	学生便覧
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	ロールプレイ発表会を例年実施していたが、新型コロナウイルス感染症拡大により実施ができなかった。		学内だけでなく、保護者にも技術を披露する機会を作っていきたい。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
既取得単位の認定に関しては、時間制から単位制に移行した直後より導入し、科目としては、基礎科目のみを対象としている。 技術発表においては卒業後に即戦力として臨床で活躍できるよう目指している。	国家試験があるために国家試験関連科目については、既取得単位の認定対象外としている。

最終更新日付	2022 年 5 月 20 日	記載責任者	富田 美穂子
--------	-----------------	-------	--------

3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	学則にカリキュラムが規定され、カリキュラムに則った編成を行う。この他に国家試験対策等も実施している。	指定規則に規定された以上の単位数があり、それ以外にも本校独自の授業を展開。資格取得対策が可能になっている。	年々難度化する資格試験に対応するため低学年から学習習慣等の対応が必要になってきている。自主学習やグループ学習、補習などを積極的に活用し、面談等を通じて早期に学習の遅れや、問題解決を発見する。	
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	柔道整復師・歯科衛生士国家試験合格に際して、教育にあたる教員の体制は万全である。	3年次における国家試験対策（合宿含む）を行い、苦手科目等の学力強化を行っている。	3年次から具体的な国家試験対策をされていては遅く、1年次から国家試験に向けた基礎学力を身につけるための取り組みが更に必要になる。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
カリキュラムの大枠は、柔道整復師・歯科衛生士養成施設指導要領に基づき、内容自体について原則は柔道整復師・歯科衛生士国家試験合格を目的として組んでおり、教育体制もこれに準じている。	

最終更新日付	2022年5月20日	記載責任者	富田 美穂子
--------	------------	-------	--------

3-12 教員・教員組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	柔道整復師・歯科衛生士養成施設指導要領に基づき必要な教員を確保する。	柔道整復師・歯科衛生士養成施設指導要領に基づいた教員の数確保するため毎年調整している。	急な教員の異動に対応する場合に時間を要する可能性がある。	
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	教員が個々に勉学や研究活動、学会などの発表、ボランティア活動などを行い、生涯にわたり自己を研鑽し社会に貢献する。	教員による研究活動、学会発表、ボランティア活動を実施している。	研究活動を行う際の研究機器の充実を図る必要がある。	
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	校長、学科長、教員、助手の組織体制を設け、指示系統を確立し、業務を遂行する。	校長、学科長、教員、助手それぞれが学校運営者であると認識し、組織全体を活性化している。	組織的な学校運営において教員同士の意思の疎通を密にする必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
柔道整復師・歯科衛生士養成施設指導要領に基づいた教員を確保している。さらに教員が学生教育の更なる向上をねらいとして、個々に勉学などに研鑽している。 また、教員の組織体制の充実化も図っている。	

最終更新日付	2022年5月20日	記載責任者	富田 美穂子
--------	------------	-------	--------

基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学修成果については、客観的指標として国家試験合格率を上げられるが、過去 30 回の国家試験の結果を見ると、概ね教育成果として及第であると考えられる。しかし、同様の学校が増加し、また少子化とも相まって近年本校の国家試験の合格率は低下傾向にある。100%の合格が命題であるために、今後教職員が一丸となり努力が必要である。 国家試験合格率以外の学修成果としての技術・技能の修得や卒後の活躍状況については、客観的評価が困難であるが、各分野で高い評価を受けている卒業生は多々いるために、一定の基準値には達していると思われる。 なお、近年退学率が昨今の経済状況と相まって増加傾向にあり、低減に対する対策として法人全体の問題として至急検討する必要がある。 就職に関しては、きめ細やかな学生支援を目指している。全体的な指導はもちろん、学生一人ひとりに合わせた指導を行っている。業界の特性上、離職率も高い。そのため卒業生対応にも力を入れている。	国家試験合格率向上のためには、低学力の学生へのサポート体制を早急に整備する必要がある。 また、サポート体制だけではなく、学生本人が能動的に学習しうるような習慣づけが最も必要である。

4-13 (1/1)

4-13 就職率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-13-1 就職率の向上が図られているか	関連職に就職できるよう努めている。	関連職への紹介、求人票の掲示などを利用し就職率 100%を目指している。	学生、卒業生に合った就職先を見つけるためには時間を要する。学内就職説明会・個別相談会を実施している。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
多くの学生は、関連職種に概ね就職しており、概ね達成できたものと理解している。	接骨院・整骨院、整形外科病院・医院への勤務である。しかし、国家試験結果が年度末である為、卒業前に就職先の決定は把握し難い。

4-14 (1/1)

4-14 資格・免許の取得率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	柔道整復師・歯科衛生士国家試験合格率は常に 100%を目指している。	第 30 回柔道整復師国家試験現役合格率は惜しくも 73.9%であった。第 31 回歯科衛生士国家試験現役合格率は 92.3%であった。	国家試験合格率 100%を目指して努力するが、進級卒業判定基準を見直す必要がある。教員の意識改革も必要である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
資格取得（柔道整復師国家試験合格）に関しては、過去 30 回平均を見ても全国平均以上の合格率を維持している。但し、近年学校増の影響並びに学生の学力低下も否定し得ない状況のために、本校の国家試験合格率が下降しないよう今後更なる教育が必要である。歯科衛生士は、昨年度第 1 期生は 100%合格だったが、2 期生はこのような結果となった。学生数の増加により学力低下も想定されるため、本校の国家試験合格率が下降しないよう今後更なる教育が必要である。	基礎学力に乏しい学生に対して更なる教育が必要である。

最終更新日付	2022 年 5 月 20 日	記載責任者	富田 美穂子
--------	-----------------	-------	--------

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	卒業生の情報を収集するよう努力する。	整復健康学科は約 2800 名の卒業生が居るために把握しきれてはいない。	卒業生の活躍・社会での評価を把握することは非常に困難であるが、同窓会とも連携をとり可能な限り把握に努める。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業後、それぞれの地域で接骨院や整骨院を開業、整形外科病院や介護施設などに勤務、トレーナー活動などで活躍しており、様々な方面で評価を得ていると思われる。 卒業生の活躍・評価については、基準が明確でないために充分把握する事が困難であるが、概ね各々の分野で努力しているものと理解している。	

最終更新日付	2022 年 5 月 20 日	記載責任者	富田 美穂子
--------	-----------------	-------	--------

基準 5 学生支援

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生支援に関しては、担任制により 30 名～40 名を 1 名の教員が受け持っている。 原則として、担任が学生の質問・生活指導・父兄との連絡・進路指導等を担っている。 学生の健康管理については、年 1 回健康診断を 4 月初めに実施し、必要に応じて学校医が相談を受ける体制を取っている。なお、捻挫等の怪我に関しては、本校附属日体接骨院にて施術に当たっている。 学生の経済的側面に対する支援については、奨学金制度や学費の分納制度等全体的に整備されていると考える。特に、奨学金制度については、今年度まで希望者全員に日本学生支援機構の奨学金が行き届いている。	学生にとって最良の教育環境を提供できるよう学習指導、経済的支援、健康管理、施設整備、課外活動の支援など努める。

5-16 (1/1)

5-16 就職等進路

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	就職等進路の支援は、医療資格という特異性もあり、学生個々に対応している。	接骨院・整形外科クリニック・介護施設等の関係者を学校に呼び就職相談会を開催している。	就職相談会をより充実させ、高い就職率の維持を目指す。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職相談会と個別対応を中心として支援している。 職種の特異性から就職活動という概念がなく、現状の方法での大きな混乱はない。	

最終更新日付	2022 年 5 月 20 日	記載責任者	富田 美穂子
--------	-----------------	-------	--------

5-17 中途退学への対応

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-17-1 退学率の低減が図られているか	退学者を出さないことを目標に教職員が学生の問題解決に努める。	勉強への意欲が低下しないよう、補習を実施し科目の理解を助けている。	金銭理由の場合は、奨学金等の紹介を行う。入学後の進路変更が増えてきているため、入学前にミスマッチを防ぐ取り組みが必要である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
現状は基礎学力の問題や学費納付が困難などの理由による退学者が多く、勉強への意欲が消失しないよう、補習を実施し科目の理解を助けている。また、奨学金や教育ローンなどを紹介している	

5-18 学生相談

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	各クラス担任が学生の面談を実施している。相談し易い環境づくりに努める。	クラス担任は学生の目線からみて身近で相談し易いと思われる。一方、近年多様な学生が入学している実態もある。	担任以外の教員による学生へのフォローをより充実させる。必要に応じてカウンセラーに相談できる体制も確立する必要がある。	
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	留学生を受け入れていない。国家試験合格が困難だけでなく、留学生の生活も対応できる体制がない。			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生に対する指導や学生からの相談に関しては、クラス担任を中心として、必要に応じて、学生個々に或いは全体で実施している。	入学生は全員が高校卒業以上であり、中には 30 代の学生もいる。従って、学生の相談内容も多岐にわたる。

5-19 (1/1)

5-19 学生生活

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	給付型奨学金や奨学金、その他の教育ローンの適応できるよう勧めている。	奨学金の希望者や相談に対して対応出来る教職員に限られており、学生がいつ相談に来ても対応できる体制が取れてない。	多くの教職員が奨学金に対して十分に理解する必要がある。	日本学生支援機構案内
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	年 1 回の健康診断の他、教職員で学生の健康状態を常に観察するよう努めている。	学生の健康管理は、学校医が担当している。医師資格免許のある非常勤講師が相談に乗ることもある。	学生や保護者と連絡を取りやすい環境を継続する。	
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	学生寮の設置はない。	学校提携の学生マンション紹介会社を案内している。		
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	柔道部とトレーナー勉強会があり、技術向上のため活動している。	学生個々から集めた部費により運営している。	柔道部やトレーナー勉強会の活動成果の明確な報告をするよう改善する。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
奨学金加入者が増加傾向にある。 学生の健康管理は、健康診断が中心であり、必要に応じて学校医による個別対応を行っている。 課外活動に対する支援を今後も実施する。	学生の健康相談により、近隣の病院・医院等を紹介している。

最終更新日付	2022 年 5 月 20 日	記載責任者	富田 美穂子
--------	-----------------	-------	--------

5-20 保護者との連携

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-20-14 保護者との連携体制を構築しているか	学生の学校生活や成績などの相談を保護者と随時行うよう努めている。	相談などの用件があれば、保護者と連絡をとり面談を実施している。	保護者会、授業見学、学校行事への参加等の機会を設定していきたい。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
必要に応じて連絡・面談を実施している。	生活を自立し、自己で学費を納入している学生については、保護者・保証人への連携が必要でない場合がある。

5-21 卒業生・社会人

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	卒業生の就職先の相談、紹介の窓口として努める。	本校に提出されている求人票を閲覧させ、就職先の相談等を受けている。	現状でも大きな問題はないが、卒業生にとってオープンな学校であることを心掛ける。	
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	卒業後の臨床研修の必要性を認識させる。	柔道整復師研修試験財団による卒後臨床研修制度に受講するよう勧めている。	卒後の臨床研修制度は現行の法律では必須ではないため、受けない卒業生がいる。	
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	卒業生（同窓生）による研究会により情報交換の場の提供に努める。	卒業生（同窓生）による日体柔整臨床研究会に協力している。	卒業生は全国各地に移動するため卒業生全員に教育することは困難である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生（同窓会）では、卒後教育の一環として臨床研究会を年 1 回開催している。今後は、この研究会の更なる充実・発展を図ると共に、これ以外の卒後教育体制の確立も視野に入れた検討が不可欠である。	

最終更新日付	2022 年 5 月 20 日	記載責任者	富田 美穂子
--------	-----------------	-------	--------

基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
施設・設備に関して教育上必要と思われるものは、設置基準に照らして整備・充実させメンテナンスも充分実施している。 インターンシップとしては、本校設置の施術所において実習として行い、患者とのふれあい等の経験もしている。 防災に関しては、消防法に則り防災設備を整備し、防災体制も所轄消防署に届けている。なお、毎年 9 月初めには避難訓練を実施している。また、緊急連絡網を毎年学年ごとに作成しているので、災害時にも活用出来る。 災害を起こす可能性のある設備機器等の情報は、毎年度始めのオリエンテーションの際、避難経路の確認・消火栓等の位置確認と避難場所の説明を併せて行っている。 学外実習については、解剖見学実習を医科・歯科大学にて毎年 2 年生・3 年生に実施し、解剖学の理解を深めている。	

6-22 (1/1)

6-22 施設・設備等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	毎年、事業方針・事業計画を策定し整備を実施する。	毎年施設設備の点検を行い、修繕・補修等整備を行っている。	今後も中期・長期的な事業計画を策定し実施していく。	事業方針・事業計画書

中項目総括		特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）			
設置基準に基づく施設は、整備されている。					
		最終更新日付	2022 年 5 月 20 日	記載責任者	富田 美穂子

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	学外実習としては、接骨院、整形外科の実習や歯科医院、介護施設での実習の他に、解剖見学実習を実施し、人体の構造について理解を深めている。	解剖見学は、医科、歯科大学にて2年次・3年次に各1回実施している。 学内実習（本校附属施術所）の他、学外実習では整形外科・接骨院・歯科医院、総合病院・介護施設を活用している。	解剖見学以外でも、学会での研修・実習の場を開拓する。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学外実習は、整復健康学科では接骨院、整形外科、口腔健康学科では歯科医院、幼稚園、介護施設などで行っている。その他に解剖見学実習を行う。この他にも学生が必要とする外部実習等の機会を検討していきたい。	

最終更新日付	2022年5月20日	記載責任者	富田 美穂子
--------	------------	-------	--------

6-24 防災・安全管理

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	毎年避難訓練を実施して、防災時の体制整備を行っている。	毎年避難訓練を実施している。	現在、避難訓練時に地震時の訓練実施を考えている。	消防法に則り所轄消防署に防災体制を書類にして提出済
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	毎年、オリエンテーション時及び避難訓練時に、災害時の設備・機器使用方法の説明をしている。	毎年、オリエンテーション時及び避難訓練時に災害時の設備・機器の説明をしている。 避難経路の障害になる駐車等の禁止区域を設定する。	今後、設備・機器の更新も図りたい。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎年、避難訓練を実施しているために、教職員に関しては経験を積んでいるので、心配はない。但し、学生に関しては、通常在学中の3回だけのために少し心配である。 避難経路確保については、交通用具使用者の増加に伴い制限を設ける方法を取っていく。	日常から授業などで災害緊急時の対応を学生に理解させ、安全管理の徹底に努めている。

最終更新日付	2022年5月20日	記載責任者	富田 美穂子
--------	------------	-------	--------

基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
設置以来、苦しい状況が続いてきた口腔健康学科が初めて定員を充足した。 一方、定員を拡大（30 名→45 名）した整復健康学科が入学定員を大幅に下回る結果となった。 原因のひとつは同法人の日本体育大学内に同じ資格取得を目指す学科があり、そちらに流れてしまったことだが、これまで口腔健康学科の募集に注力し、整復健康学科の PR 機会が少なくなっていたことも影響があると考ええる。 広報・募集活動を見直しつつ、在校生の教育向上を推進して、国家試験 100% 合格を目指し、また優秀な卒業生を輩出することで学生募集の一翼を担うようにする。	整復健康学科（入学定員 45 名／入学者 27 名） 口腔健康学科（入学定員 40 名／入学者 40 名） ＜整復健康学科＞定員充足できなかった大きな理由として ・ PR 不足 ・ 広報戦略の見込み違い 次年度からの募集活動に活かし、定員充足を目指す。

最終更新日付	2022 年 5 月 20 日	記載責任者	富田 美穂子
--------	-----------------	-------	--------

7-25 学生募集活動は、適正に行われているか

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	法人設置高等学校のみならず、スポーツの盛んな高校及び社会人入学への募集活動を拡大するための情報提供を行っている。	法人設置高等学校、大学に向き直接情報を提供している。	法人設置高等学校、大学からの受験希望者を増加させたい。	
7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	法人設置校、卒業生、高等学校、大学に郵送、または直接出向き募集活動に努める。 高校への指定校制度を導入する。 日体大との連携を深め、3年次編入を容易にする。	高校訪問の増加、オープンキャンパス年 16 回入試日 10 回を基本に指定校受験等状況に応じ臨時の日程を設ける。	募集活動は 1 年を通して行い、対象者に高校の 1 学年、2 学年を入れる。また、入試や、オープンキャンパスの回数や時期を調整する必要がある。	・学校案内、募集要項 ・ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教職員が分担して、法人設置高等学校、大学、並びに在校生の母校に対して募集活動を実施した。 設置高等学校に対しては本校の減免制度をアピールしていく。	

最終更新日付	2022 年 5 月 20 日	記載責任者	富田 美穂子
--------	-----------------	-------	--------

7-26 入学選考

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	適正、且つ公平に実施している。	入試実施要領に基づき実施している。		・入試実施要領
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	おおよその学力に合わせて授業の難易度を考えるよう努める。	おおよその学力に合わせた授業の難易度を確認しながら授業を進行する。		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学選考そのものは、入試実施要領に則り、適正且つ公平に実施している。	募集、入学試験、入学手続きなどを適正且つ公平に実施している。

最終更新日付	2022年5月20日	記載責任者	富田 美穂子
--------	------------	-------	--------

7-27 学納金

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	学納金に応じた経費で賄っている。	学納金に応じた経費で賄っている。		・学則 ・募集要項
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱いを行っているか	年度内に入学辞退の申告があれば、入学金以外は返金する。			・募集要項

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学納金については、同種の学校と比較して整復健康学科 3 カ年の金額は平均より安い、口腔健康学科は平均に近い。	

最終更新日付	2022 年 5 月 20 日	記載責任者	富田 美穂子
--------	-----------------	-------	--------

基準 8 財務

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本学は収入の多くを学生納付金収入に頼っているため、財政を安定させるためには「学生の定員確保」「退学者抑制」が重要である。 新しい取り組みにより、退学者は抑制されつつある。一方入学者については、新しく開設した口腔健康学科において定員 40 名に対し、入学者 32 名となった。今後 3 年間は収入が減少することが予想されるため、これまで以上の経費削減に努める必要がある。また、入学定員 100%を目指す。	学生確保、退学者抑制の目標達成を目指す。 設備投資を中長期的に考え、それを基に額年度予算を作成し実行していくことで、変化に合わせた教育環境を整えていく。

8-28 (1/1)

8-28 財務基盤

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	校舎建築・校地取得に伴う借入金返済が完了し、学生募集強化を図っているため、財政基盤は安定していると考ええる。	校舎建築・校地取得に伴う借入金返済が完了している。	学生の定員確保が、何より優先課題である。	・収支計算書 ・財産目録
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	日常的な予算管理を徹底している。決算後に財務分析を行い、財政状況の学内周知を行う。	財務諸表を分析する。		・収支計算書 ・財産目録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生数が定員を下回ることから支出超過を継続してきたが、学生数の増加に伴い、徐々に回復傾向にある。	定員獲得、退学者抑制が安定した財政基盤の柱である。同時に他収入の獲得も検討していきたい。

最終更新日付	2022 年 5 月 20 日	記載責任者	富田 美穂子
--------	-----------------	-------	--------

8-29 予算・収支計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	事業方針・事業計画に基づき、1 月頃に法人事務局においてヒアリングを実施している。	事業方針・事業計画書	特に、課題等は見当たらない。	事業計画書 収支予算書
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	事業方針・事業計画に基づき執行している。	事業方針・事業計画書	特に、課題等は見当たらない。	事業計画書 収支予算書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
事業方針・事業計画に基づき執行している。	

最終更新日付	2022 年 5 月 20 日	記載責任者	富田 美穂子
--------	-----------------	-------	--------

8-30 監査

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	毎年、年度内 2 回法人及び公認会計士が監査日程を決めて適切に実施している。	公認会計士による会計中間監査、決算監査、監事監査及び法人内部による内部監査を実施している。	内部・外部によるチェック体制の確立と実施。	監査日程表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎年、年度内 2 回法人が監査日程を決めて的確に実施している。また、毎年、法人による学校経営に対する監査報告書が提出され、指摘事項、指導事項により、学校の改善を行っている。	

8-31 財務情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	法人の定めた規程に基づき、開示している。	情報公開規程	特に、課題等は見当たらない。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法人の定めた規程に基づき、開示している。	

最終更新日付	2022 年 5 月 20 日	記載責任者	富田 美穂子
--------	-----------------	-------	--------

基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は、専修学校設置基準並びに柔道整復師・歯科衛生士養成施設指定規則関連法令に基づいて運営している。 法令等の遵守については、「就業規則」「学則」に明記し、実施している。従って、特段の問題はない。	

9-32 (1/1)

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	関係法令等並びに専修学校設置基準を遵守している。		特に、課題等は見当たらない。	設置に関する各関係法令 専修学校設置基準

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は、専修学校設置基準並びに柔道整復師・歯科衛生士養成施設指定規則に基づいて設置している。現在、施設・設備の充実を図り法令等を遵守し、特段の問題はない。	

最終更新日付	2022年5月20日	記載責任者	富田 美穂子
--------	------------	-------	--------

9-33 個人情報保護

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	募集要項等に本校としての個人情報の取扱いを明記している。	個人情報保護規程や募集要項	個人情報に関して、教職員・学生等に対しても知識を与えるように努める。	・個人情報保護規程 ・募集要項

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報保護規程に則り、個人情報に関してその保護のための対策を取っている。	

最終更新日付	2022 年 5 月 20 日	記載責任者	富田 美穂子
--------	-----------------	-------	--------

9-34 学校評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	毎年自己点検・自己評価を実施し、改善に努力している。	学内 WEB によるアンケート	質問を具体的にし、より細かく評価を行う	・法人の自己点検・評価に関する規程
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	ホームページ上で掲載している。	自己点検・自己評価の実施	本校としての自己点検・自己評価を今以上に、教職員に対して認識させる必要がある。	・学校教育法 ・学校教育法施行規則
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	学校関係者評価委員会を設置し、実施している。	自己評価をもとに学校のあり方を検討している。	教職員への周知と改善を徹底する。	
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	ホームページ上で掲載している。			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
平成 19 年 12 月 26 日施行の学校教育法第 42 条により、また学校教育法施行規則第 189 条により、自己点検・自己評価を実施・公表が義務化されたことにより、毎年自己点検・自己評価を実施している。	

最終更新日付	2022 年 5 月 20 日	記載責任者	富田 美穂子
--------	-----------------	-------	--------

9-35 教育情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	高等教育無償化に基づく必要情報をホームページ上にて公開する。	カリキュラムや授業時間の概要に関してはホームページや学校案内にて公開している。	特に、課題等は見当たらない。	学校案内 ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
専門的な内容であるため細かい情報を公開はしていない。カリキュラムや授業時間の概要に関してはホームページや学校案内にて公開している。	

最終更新日付	2022 年 5 月 20 日	記載責任者	富田 美穂子
--------	-----------------	-------	--------

基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
大学医学部等での研究活動の補佐、東京都や世田谷区内での救護活動、業界団体等の役員として活躍する卒業生が多数いるので、彼らとの連携・交流を図り、社会貢献を行っている。 学校の教育資源（施設・設備）を活用し、役所・柔道整復師・歯科衛生士業界と協力して近隣住民（高齢者）に対しての転倒予防筋力トレーニングなどを本校施設・設備を利用して実施している。また、近い将来、生涯学習事業や附帯教育事業を実施する予定である。	49 年の歴史を持つ本校の卒業生とのパイプを活用し、地域医療に貢献する。

10-36 (1/1)

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	本校施設を利用し地域の高齢者の介護予防筋力トレーニングを実施している。	地域高齢者が本校施設の利用に対し感謝されている。	今後も継続して施設を利用していただく。	
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	実施していない。			

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
地域に貢献できることがあれば今後も積極的に実施する。	今後、本校の特殊な事情を踏まえて、生涯学習事業や附帯事業教育を検討していく予定である。

最終更新日付	2022 年 5 月 20 日	記載責任者	富田 美穂子
--------	-----------------	-------	--------

10-37 ボランティア活動

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	ボランティア活動を積極的に行うよう奨励はしている。	奨励はしているが、学校として活動の支援までは行っていない。	現時点においては、解決の方策はないように思われる。	

中項目総括		特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）			
多分野にわたり、活躍する卒業生がおり、連携・交流を図っている。 学校としては、学校協会や業界団体主催の事業に対するボランティア活動参加への奨励をしているが、学校として独自の支援策を行ってはいない。					
		最終更新日付	2022年5月20日	記載責任者	富田 美穂子